

WATER OF AFRICA

「水」とは、皆さんにとってどんな存在ですか。」

「・・・。」

この質問に対して、私は即答することが出来なかった。

私にとって水はとても身近な存在だ。蛇口を軽くひねるだけで、綺麗で澄んだ水が出てくることに対して、深く考えたことも無かった。つい最近までそれが当たり前だと思っていたからだ。

ある日私は、「3億人以上に飲まれている商品です。」そう書かれたネット記事を見つけた。そこには、薄汚れたペットボトルの飲料水の写真が載せられており、ペットボトルには「WATER OF AFRICA（アフリカの水）」と書かれたラベルが貼られていた。

奈良市立富雄第三中学校 三年

桑山 唯

この写真を見た時すぐに懸念を抱いた。ペットボトルの中身は不透明の濁った泥水だったからだ。写真の下の説明欄には「The most consumed water by 319 million people (1) is Africa (2) in 3 billion people that is, most people in Africa (3) are drinking water that is not clean. It is absolutely necessary to drink clean water. In fact, in Africa, cholera, typhoid, and hepatitis A are common diseases caused by drinking dirty water. In fact, in Africa, the Sahel and southern regions are, today, estimated to have 3 billion people, most of whom live in areas with contaminated water sources, and only 200 million people have access to clean water. Every year, about 200,000 children die before they turn five years old because of this。」と書かれていた。絶対に飲むべきでない。心の中で強くそう思った。同時にこの汚染された水を三億人以上が飲んでいるという事実さらに強い懸念を抱いた。調べてみると、こうした汚染水源は、コレラや下痢、A型肝炎、腸チフス、ポリオなどの病気を引き起こすそうである。実際に、アフリカのサハラ以南地域では、今日も推定三億九千万人ほどの人々が、最も汚染された水源へのアクセスのみで生活することを強いられており、毎年約二百万人の子どもが五歳を迎える前に亡くなっている。

その記事の内容は、私にとって、とてもシ
ョッキングな内容だった。これをきっかけに
私は水に興味を持ちはじめた。
私たちは日頃から、飲み水や洗濯、手を洗
ったり、料理をするときなど、様々なことに
沢山の水を使っている。
その水がなくなったらどうなるだろう。人
間の約六十パーセントは水で出来ていると言
われており、水は健康を維持するためになく
てはならない存在だ。さらに、地球の水は六
億年後にはなくなってしまうと言われており、
なくなってしまうたら、全ての生物が絶滅し
てしまう。そんな危機的な状況にも関わらず、
私たち日本人は、今日も一日一人で二百十四
リットルもの水を使っている。
そこで、生徒会長として、学校全体で出来
る取り組みを考えたい。節水は出来るだけ多く
の人が実行することが大切だと思う。学校生
活の中で、水を使うシーンは様々だが、手を
洗うシーンにスポットライトを当て、節水を
意識したいと思う。調べると、一分間、蛇口
の水を流し続けると十二リットルになること
が分かった。だから、蛇口をこまめに閉め、

水が流れる時間を三十秒に減らすことが出来
れば、それだけで六リットルの節水が出来る。
私の学校は全校生徒、約二百人なので、一日
に千二百リットルの節水が出来る。目標は月
に三万リットルの節水である。今、ここまで
色々なことを考えているうちに、行動に移し
たくてたまらなくなっている。この目標を実
現するためには、学校全体で水を大切に使う意
識を高めていきたい。
こうした一人一人の言動が、自然も人も笑
顔になれる未来につながることを願う。まず
は私から、水を大切にする取り組みを始めて
いきたい。
水の大切さにより多くの人が気付いたとき、
世界中に美しい水が行き渡っているはずだ。